



頭を傾け、耳が垂れた子牛にご用心！

最近、哺育牛や育成牛で、頭部を傾け片側又は両側の耳を垂らした牛を見かけることはありませんか？ これは、牛が可愛いポーズをとっているのではなく、マイコプラズマによる中耳炎、外耳炎の症状です。農場で見かけた場合は、獣医さんに相談しましょう。

1 原因 マイコプラズマ属（マイコプラズマ ポビス）の感染

2 症状

主な症状は中耳炎であり、内耳神経が障害された場合には頭を傾けたり、顔面神経が障害された場合には耳介下垂（耳が垂れる）などの症状が見られます。

発症は30～90日齢に多く見られ、元気消失、哺乳欲の減退、持続的な高熱が見られます。中耳炎等により、聴覚障害（耳が聞こえない）や顔面の麻痺が見られることもあります。死亡率は、高くはありませんが、聴覚障害等は治らない場合もあります。

3 感染経路

マイコプラズマに汚染された生乳、マイコプラズマに感染した牛から直接あるいは間接的（哺乳器具、餌槽）に感染します。最近では、自動哺乳装置を導入した農場での発生が増加しています。

4 予防

- ①初乳は適切に給与してください。
- ②導入牛は、最低でも2週間の隔離観察を行ってください。
- ③子牛に生乳を与える場合は、必ず加温処理を行い、使用するバケツなどは専用のものを毎日、洗浄・消毒しましょう。

5 対策

- ①異常を発見したら速やかに獣医師に連絡しましょう。
- ②密飼を避け、子牛へのストレス低減に努めて下さい。
- ③発症牛のいた牛舎は、入念な消毒を実施してください。
- ④当然のことながら感染牛の隔離あるいはウイルス性呼吸器病5種混合ワクチンの2回接種も発生低減のためには必要なことです。



左側へ斜頸し耳介下垂、聴覚障害、眼瞼麻痺および角膜反射の低下を呈した68日齢の子牛



左の写真の治療終了から4カ月後。各症状はほとんど改善していない